

基本情報

指標番号
3312

名称

周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：胃全摘術（開腹/腹腔鏡下手術）

分母

胃全摘術（開腹/腹腔鏡下）が行われた症例

分子

手術実施日の翌々日（手術実施日+2）に抗菌薬（推奨薬剤かどうかは問わない）が投与されていない症例数

指標群

周術期抗菌薬予防投与

意義

周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に入退院した症例を対象とする。
2. このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

レセ電コード	名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150166110	胃全摘術（単純全摘術）	K6571	○	○	○	○	○	○	○
150168110	胃全摘術（悪性腫瘍手術）	K6572	○	○	○	○	○	○	○
150429010	胃全摘術（悪性腫瘍手術） （空腸囊作製術を伴うもの）	K6573							○
150323610	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術）	K657-21	○	○	○	○	○	○	○
150323710	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）	K657-22	○	○	○	○	○	○	○
150407010	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術） （内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合）	K657-21					○	○	○
150407110	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術） （内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合）	K657-22					○	○	○

レセ電コード	名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150429110	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）（空腸囊作製術を伴うもの）	K657-23							○
150407110	腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	K657-24							○

3. このうち、手術実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている（EF ファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○	○

4. このうち、手術実施日の前日（手術日-1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EF ファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 手術実施日の翌々日（手術実施日+2）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例。

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

%

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
2. 本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

参考資料

参考値

参考資料

1. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会, 公益社団法人日本化学療法学会/ 一般社団法人日本外科感染症学会. 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 2016.